

通勤バスでの発見

サリナ H. カシム

日本に半年間住んですばらしい経験、忘れられない出来事がたくさんあった。でもここでは日常の経験をお伝えしたい。それは毎日通勤に使うバスについてである。というところから細なことのよう聞こえるだろう

が、興味深いことがわかったし、学ぶこともあったのだ。なぜバスか、という点でマレーシアでは公共バスが関わる交通事故は大きな問題であり毎日のように地方新聞の紙面に事故のニュースが載るからだ。日本の交通事故による死者数は世界的にみて最小の国に属するが、マレーシアは国連の調査によればワースト三〇位に位置している。事故のほとんどは乗り合いバスが関係しており状況は悪化している。特に交通量が増えるお祭りの時期には多い。日本でのこの一見なんでもないようなことの観察を通じて乗客の安全を第一と考える意識と時間をちゃんと管理しようという意識が交通安全に結びついているということも学んだ。マレーシアのバスの運転手が乗客の安全に気配りしもつと思いがけず、時間を守るという意識があれば交通事故は幾分減るに違いない。

マレーシアと比べると日本のバスの運転手さんは親切なことこの上ない。乗り込んで運賃を払うといつも「ありがとうございます」とほほえみながら頭を下げる。そして出発するときバスは時刻表どおりに走っているのだが「ドアを閉めると

すぐさま「発車いたします、お気をつけください。」と言う。この類の言葉はマレーシアでは決して発せられない。読者のみなさんがマレーシアで公共バスに乗るとすると運転手の声を聞くことはほとんどあるいは全くないだろう。でもバスの前に行き止まっている車がいったり、渋滞に巻き込まれたりするとひとり何かわからないことをぶつぶつ延々とやっているのを聞くこともある。日本のバスの運転手さんの多くはとも感じがよい。バス停や信号が青になって発車するたびに「発車します。ご注意ください。」と言う。私は会社が課す業務としてはなく乗客の安全へ心からの気遣いは慎重になる。終点のバス停で降りるお客さん一人一人に「ありがとうございます」と繰り返し礼をいっている運転手もいる。バスがからになるまで言う。日本の人たちにはもう見慣れた光景だろうが私にとってはまったく新鮮な経験だった。人なつこいサービスは別として、より大切なことは、バスサービスが効率的で信頼がおけることだ。バスはどんなときも運行しているし宗教的にもいつていいほど時間に忠実だ。時間どおりの運行は日本人が時間や決められた時間を守ることを非常に大切に思っていることの反映である。このように考えると時間厳守も理解できる。時刻表を守れば運転手は次の停留所まで所定の時刻までに着くよう全速力で突っ走る必要もなくなる。運転手のプレッシャーも減り乗客への気配りの余地が生まれ、もつと落ち着いて仕事をエンジョイできるようになるのだ。さらに重要なことはつまらないことにいららなくなることだ。ドアを閉めてから遅れてきた乗客のために運転手がドアを開けてくれるのを日本では見たことがない。マレーシアでは待つてくれるのが普

通だし、バス停以外のところでも乗客を乗せてくれさえもする。日本ではある路線エリアで運行するのは一つのバス会社であることがわかった。これに対しマレーシアでは一つの路線を二つ、場合によっては三つのバス会社が運行するのが当たり前だ。結果、競争の激化を招き、運転手は他社に対抗し一人でも多くの乗客をのせようとあの手この手を使うようになる。無謀な運転やバス停以外の場所で人を乗せたりすることにもなる。インセンティブが運転手の動機付けや業務態度に密接に影響する。マレーシアではバス運転手の給料は歩合制で低い基本給に乗車賃に比例した手数料が加算されている。乗客が増えれば給料も上がるのだ。公共バスサービスを改善しようと思えば日本の公共バス運営の仕組みとインセンティブ・システムを理解することが役に立つことだろう。毎日のバス通勤という些細な体験にも自国のバスサービスに生かせる点を見いだすことができる。バスだけでなく半

年間の日本滞在で他のマレーシア人とも同感しあえるようなことがいくつもあった。日本の人々の生活や文化を体験する機会を得られたことに感謝したい。また、バス通勤のような日常観察から日本が世界で成功した国の一つになりえた訳が理解できた。ほかの先進国と比べてみて時間の尊重とともに人々の暖かさや親切心という点で日本は特別である。時間を大切にすること、人々がお互いに尊敬しあうことはマレーシアも含め他国が見習うべき顕著な価値感だろう。



海浜幕張駅前京成バスの運転手さん

Salina H. Kassim / 海外客員研究員

Assistant Professor, Department of Economics, Faculty of Economics,
International Islamic University Malaysia 滞在期間 2009/11-2010/5
研究テーマ: The Dynamics of Co-Movement between the Islamic Stock
Indices: Evidence From Indonesia, Japan, Malaysia, United Kingdom and the United States